

平成20年 9月2日	農作物病虫害発生予報 9月	山口県病虫害防除所 山口県農林総合技術センター
---------------	--------------------------------	----------------------------

～目次～	
I 予報の概要	1
II 予報	
【主要病虫害】	2
【その他の病虫害】	9
III 参考(予報の見方、気象予報、9月のテレホンサービスの内容)	10

I 予報の概要

農作物名	病虫害名	予想発生量	現況	
			平年比	前年比
イネ	いもち病(穂いもち)	平年並	平年並	前年並
	紋枯病	平年並	やや少	前年並
	トビイロウンカ	やや少	やや少	少
	コブノメイガ	やや少	少	少
	斑点米カメムシ類	やや多	やや多	前年並
ダイズ	ハスモンヨトウ	やや多	やや多	多
	吸実性カメムシ類	やや多	平年並	前年並
カンキツ	かいよう病	やや少	やや少	少
	黒点病	やや少	少	少
	ミカンハダニ	多	多	多
果樹全般	カメムシ類(チャバネカメムシ、クサギカメムシ、ツヤカメムシ)	平年並	平年並	前年並
野菜全般	ハスモンヨトウ	やや多	平年並	前年並

作物	担当者
普通作	藤村(病害) 中川(虫害)
果樹	村本(病害) 殿河内(虫害)
野菜	岡田(病害) 溝部(虫害)

お問い合わせ先	
TEL	(083) 927-4006
FAX	(083) 927-4071

II 予報

【主要病害虫】

イ ネ

1 いもち病（穂いもち）

(1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
平年並	平年並	前年並	粉剤・液剤：穂ばらみ後期と穂揃期の2回

(2) 予報の根拠

ア 8月下旬の巡回調査では、穂いもちの発生ほ場率は14.5%（平年19.2%）、発病穂率0.1%（平年0.3%）で平年並みであった（±）。

イ 気象予報では、9月の降水量、日照時間は平年並みである（±）。

(3) 防除対策

<防除判断>

出穂期後2週間を過ぎた薬剤散布は効果が劣る。

2 紋枯病

(1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
平年並	やや少	前年並	—

(2) 予報の根拠

ア 8月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は26.5%（平年37.3%）、発病株率は3.4%（平年6.3%）で平年に比べやや少なかった（-）。

イ 気象予報では、9月の気温は高い（+）。

(3) 防除対策

<防除判断>

出穂期後2週間を過ぎた薬剤散布は経済的効果が劣る。

3 トビイロウンカ

(1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
やや少	やや少	少	9月3日頃まで（第3世代幼虫最盛期） 9月8～12日頃（ " ） 9月18～26日頃（ " ）

(2) 予報の根拠

ア 8月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は3.6%(平成21.9%)、10株当たり虫数は0.014頭(平成7.5頭)、10株当たり短翅成虫数0頭(平成0.3頭)で平年に比べやや少なかった(－)。

イ 気象予報では、9月の気温は高い(+)

(3) 防除対策

<防除判断>

ア 本年は防除の必要性は低いため、ほ場を確認のうえ適切な防除に努める。

イ ほ場の発生密度は幼虫最盛期に当たる9月上旬に確認するとともに、それ以降も多発していないかを適宜確認する。

ウ 防除の目安は、9月上旬までは成幼虫5頭/株以上である。

エ 本年はセジロウンカ短翅成虫及びヒメトビウンカの発生が多いため、ほ場を確認する際にはトビイロウンカと見誤らないようにする。

<防除のポイント>

薬剤は株元にかかるように丁寧に散布する。

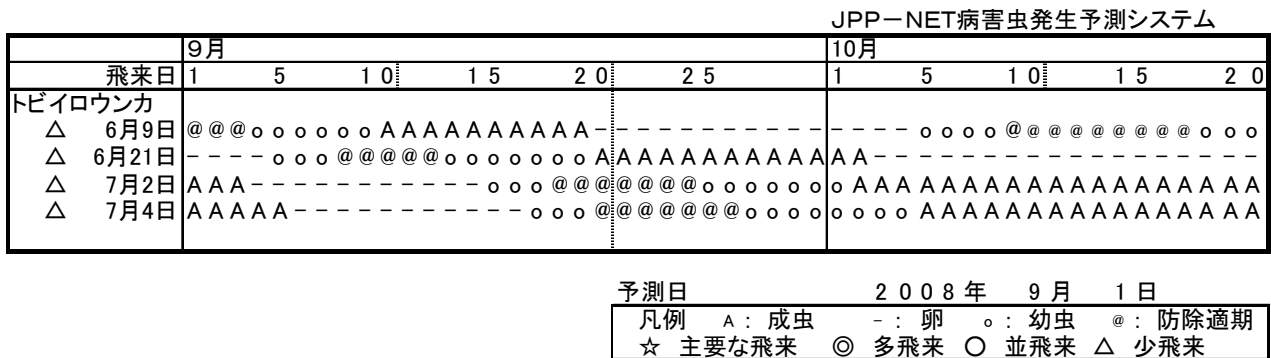


図 トビイロウンカの防除適期予測図

4 コブノメイガ

(1) 予報内容

予想発生量	現況		防除時期
	平年比	前年比	
やや少	少	少	ほとんどのほ場でコブノメイガ対象の防除は必要ない。 (防除適期予測図参照)

(2) 予報の根拠

ア 8月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は45.8%(平成61.2%)、被害株率は6.6%(平成22.8%)、被害葉率は0.3%(平成2.0%)で平年に比べ少なかった(－)。

イ 気象予報では、9月の気温は高く、降水量は平年並みである(+～±)。

(3) 防除対策

<防除判断>

出穂後のイネには産卵が少なく、成虫最盛期にはほとんどのほ場で出穂をしているため、ほとんどのほ場でコブノメイガ対象の防除は必要ない。

JPP-NET病害虫発生予測システム

		9月					
飛来日		1	5	10	15	20	25
コブノメイガ							
△	6月21日	@	o	o	o	o	o
△	7月2日	A					
△	7月4日	A	A	A	A		

予測日 2008年 9月 1日

凡例 A: 成虫 -: 卵 o: 幼虫 +: 蛹 @: 防除適期
 ☆ 主要な飛来 ◎ 多飛来 ○ 並飛来 △ 少飛来

図 コブノメイガの防除適期予測図

5 斑点米カメムシ類

(1) 予報内容

予想発生量	現況		防除時期
	平年比	前年比	
やや多 (8月下旬以降に出穂したほ場)	やや多	前年並	<ul style="list-style-type: none"> ・ 穂揃期に防除を実施する。 ・ 穂揃期防除後にはほ場の状況を確認し、斑点米カメムシ類を確認した場合は、その7日後に再度防除を実施する。

(2) 予報の根拠

ア 8月下旬の巡回調査(出穂したほ場を対象)では、発生ほ場率は37.8%(平年30.7%)、20回すくい取り虫数は0.68頭(平年0.57頭)で平年に比べやや多かった。種類別ではクモヘリカメムシ及びアカスジカスミカメともに平年に比べやや多かった(+).

イ 7月6半旬~8月5半旬までの予察灯誘殺数(県内4か所)は、アカスジカスミカメ、クモヘリカメムシともに平年に比べやや多かった(+).

(3) 防除対策

<耕種的防除>

斑点米カメムシ類の本田への移動を助長するので出穂したイネ科雑草の草刈りは避ける。

<防除のポイント>

ア 防除時期に畦畔に出穂したイネ科雑草(エノコログサ、ヒエ、メヒシバ等)がある場合は、畦畔も含めて防除を実施する。

イ カメムシ類は広範囲に移動するので、広域で一斉防除すると効果が高い。

ウ 薬剤散布後もほ場でカメムシが見られる場合は、追加防除を実施する。ただし、収穫前日数に特に注意する。

エ 早期イネの稲穂をつけたひこばえはカメムシ類の発生源となる可能性がある
ので早めに耕耘する。

ダイズ

1 ハスモンヨトウ

(1) 予報内容

予想発生量	現況		防除時期
	平年比	前年比	
やや多	やや多	多	9月10日～15日の若齢幼虫最盛期（防除適期予測図参照）

(2) 予報の根拠

ア 8月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は42.9%（平年37.6%）、1a当たり白変葉か所数は1.1か所（平年0.9か所）、25株当たり虫数は5.3頭（平年2.8頭）で平年に比べやや多かった（+）。

イ 県内のフェロモントラップにおける7月5半旬～8月4半旬の誘殺数は、平年並みであった（±）。

ウ 気象予報では、9月の気温は高く、降水量は平年並みである（+～±）。

(3) 防除対策

<防除判断>

防除の目安は、白変葉か所数が1アール当たり5か所以上である。

<防除のポイント>

薬剤は同一系統の連用を避ける。

JPP-NET病害虫発生予測システム

飛来日	9月					10月					
	1	5	10	15	20	25	1	5	10	15	20
ハスモンヨトウ											
△ 7月26日	AAAAA-----@@@@@@@oooooooooooooooooooo						oooooooo+++++				
△ 8月12日	oooooooooooo+++++AAAAAAAAA						AA-----@@@@@@@@@@@				
○ 8月20日	@@@@@oooooooooooooooooooo+++++						+++++AAAAAAAAAAAAAAAAA				

予測日 2008年 9月 1日
 凡例 A: 成虫 - : 卵 o: 幼虫 +: 蛹 @: 防除適期
 ☆ 主要な飛来 ◎ 多飛来 ○ 並飛来 △ 少飛来

図 ハスモンヨトウの防除適期予測図

2 吸実性カメムシ類

(1) 予報内容

予想発生量	現況		防除時期
	平年比	前年比	
やや多	平年並	前年並	莢伸長最盛期（開花期後30日頃）と、子実肥大完成期（開花期後45～50日頃）の防除を実施する。

(2) 予報の根拠

ア 8月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は57.1%（平年40.8%）、1㎡当たり虫数0.18頭（平年0.21頭）で平年並みであった（±）。

優占種は、イチモンジカメムシ及びホソヘリカメムシであった。

イ 気象予報では、9月の気温は高く、降水量は平年並みである（+～±）。

(3) 防除対策

＜防除のポイント＞

ア 防除の際はダイズの莢に薬剤が充分かかるよう散布する。

イ 8月までは低密度でも、9月以降密度が急増することが多いため、ほ場での発生状況を確認する。

カンキツ

1 かいよう病

(1) 予報内容

予想発生量	現況		防除時期
	平年比	前年比	
やや少	やや少	少	台風の襲来前

(2) 予報の根拠

ア 8月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は19.0%（平年24.1%）、発病率は0.9%（平年4.2%）、発病度0.2（平年1.3）で、平年に比べやや少なかった（-）。

イ 気象予報では、9月の降水量は平年並みである（±）。

(3) 防除対策

＜防除判断＞

すでに発病しているほ場やあまなつ、いよかん等発病しやすい品種では、台風の襲来前に防除を実施する。

＜防除のポイント＞

ア 発病した枝葉は除去する。

イ 本病は、ミカンハモグリガ食害痕から容易に感染するため、防除を徹底する。とくに、着果数の少ない園や幼木、隔年交互結実園の遊休樹等ではミカンハモグリガの被害が発生しやすいので注意する。

ウ 温州みかん等かいよう病に比較的強い品種でも多発することがある。とくに発病しやすい品種との混植園や近くに発生園がある場合は発生状況に注意する。

エ 防風樹や防風ネットを整備し、強風により枝葉や果実に傷が付くのを防ぐ。

オ コサイドDFやZボルドーなどの無機銅水和剤を散布する場合は、薬害を防ぐため炭酸カルシウム水和剤（クレフノン）200倍を加用する。なお、ICボルドー66Dを高温期に使用すると薬害を生じやすいので使用を避ける。

2 黒点病

(1) 予報内容

予想発生量	現況		防除時期
	平年比	前年比	
やや少	少	少	前回の防除後、累積降水量が200～250mmに達したとき、または薬剤散布後1か月を経過したとき

(2) 予報の根拠

ア 8月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は100%（平年99.6%）、発病率は29.4%（平年63.0%）、発病度4.4（平年12.3）で平年に比べ少なかった（-）。

イ 気象予報では、9月の降水量は平年並みである（±）。

(3) 防除対策

<防除判断>

予防散布が基本であるので、前回の防除後、累積降水量が200～250mmに達したとき、または薬剤散布後1か月を経過したとき防除を実施する。

<防除のポイント>

樹冠内の枯れ枝や放置された剪定枝は本病の伝染源となるので、園外に持ち出して処分する。

3 ミカンハダニ

(1) 予報内容

予想発生量	現況		防除時期
	平年比	前年比	
多	多	多	防除の目安を超えたとき 雌成虫数の寄生葉率30～40%以上 または雌成虫1葉当たり0.5～1頭以上

(2) 予報の根拠

ア 8月下旬の巡回調査では、発生ほ場率54.5%（平年25.0%）、寄生葉率9.5%（平年2.8%）で平年に比べ多かった（+）。

イ 気象予報では、9月の気温は高い（+）。

(3) 防除対策

<防除判断>

防除の目安は、雌成虫数の寄生葉率が30～40%以上、または雌成虫密度が1葉当たり0.5～1頭以上である。

<防除のポイント>

発生ほ場率は高く、一部で多発しているほ場が認められるため、こまめにほ場を見回り、収穫期まで多発させないように注意する。

果樹全般

1 カメムシ類（チャバネカメムシ、クサギカメムシ、ツヤカメムシ）

(1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
平年並	平年並	前年並	園地への飛来を確認した時

注）現況は予察灯とフェロモントラップ調査による。

(2) 予報の根拠

予察灯の誘殺数（県内5か所、7月6半旬～8月5半旬合計）は、383頭（平年834頭）で平年並みであった（±）。

(3) 防除対策

<耕種的防除>

例年被害が発生する園では、ネット（網目4mm以下）で園全体を覆い侵入を防ぐ。

<防除判断>

被害を受けることの多い園では、園内の発生状況や周辺の灯火を観察し、飛来がある場合は防除する。

<防除のポイント>

カメムシ類に対する飛来時以外の薬剤散布は効果がないだけでなく、ハダニやカイガラムシの多発を招く場合があるため、スケジュール散布はしない。

野菜全般

1 ハスモンヨトウ

(1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
やや多	平年並	前年並	若齢幼虫期（ダイズの防除適期予測図を参照）

(2) 予報の根拠

ア 県内のフェロモントラップ（4か所）における7月5半旬～8月4半旬の誘殺数は平年並みであった（±）。

イ 気象予報では、9月の気温は高い（+）。

(3) 防除対策

<防除判断>

野菜の定植時期は異なっているため、ほ場での発生状況を確認する。

<防除のポイント>

ア 卵塊や若齢幼虫が集団で食害している葉を探し、捕殺する。

イ イチゴ等の施設栽培では、鉄骨パイプや天井ビニール等に産卵することが多いので、黄褐色の毛に覆われた卵塊を見つけたら直ちに捕殺する。

ウ 若齡幼虫期の防除を徹底する。

エ 薬剤抵抗性を発達させないため、同一系統の薬剤の連用は避ける。

【その他の病害虫】

作物名	病害虫名	予想発生量	現況		発生ほ場率		備考
			平年比	前年比	本年(%)	平年(%)	
イネ	ツマグロヨコバイ	やや多	やや多	多	31.3	23.8	近年、出穂期以降に多発生することがある。
野菜全般	アブラムシ類	平年並	平年並	前年並	—	—	山口市の黄色水盤による8月の誘殺数は平年並みであった。
	シロイチモジヨトウ	平年並	平年並	前年並	—	—	山口市のフェロモントラップによる8月の誘殺数は平年並みであった。
	オオタバコガ	平年並	平年並	前年並	—	—	山口市のフェロモントラップによる8月の誘殺数は平年並みであった。

Ⅲ 参考

1 予報の見方

(1) 病害虫発生量の基準（原則として過去10年間の発生量と比較）

ア 平年比

多	過去10年間で最も多かった年と同程度以上の発生
少	〃 で最も少なかった年と同程度以下の発生
やや多	〃 で2～3番目に多かった年と同程度の発生
やや少	〃 で2～3番目に少なかった年と同程度の発生
平年並	〃 で標準的にみられた発生（上記4項目を除くもの）

（注：過去の発生量との比較を表わすもので、被害や防除の必要性とは異なる）

イ 前年比

多	平年比の5段階評価で区分し、前年の評価より多い発生
少	〃 前年の評価より少ない発生
前年並	〃 前年の評価と同等の発生（上記2項目を除くもの）

(2) 予報根拠における発生要因の評価基準

+	発生を助長する要因
±	発生の助長及び抑制に影響の少ない要因
-	発生を抑制する要因

2 気象予報

(1) 概要

1か月気象予報（8月29日福岡管区気象台発表）

予 報	低 い(%) 少ない	平年並(%)	高 い(%) 多い
気 温	20	30	50
降 水 量	30	40	30
日照時間	30	40	30

週ごとの気温傾向

予 報	低 い(%)	平年並(%)	高 い(%)
1 週 目	20	50	30
2 週 目	20	40	40
3～4週目	20	40	40

3 9月のテレホンサービスの内容（予定）TEL(083)927-4649

時期	内 容
上旬	9月の発生予報、イネ病害虫の防除、ダイズの害虫の防除、野菜病害虫の発生状況と防除
中旬	果樹類害虫の防除、イネ病害虫の防除、イチゴ定植期前後の管理、ダイズ、野菜全般のハスモンヨトウの防除
下旬	野菜病害虫の発生状況と防除、果樹カメムシの防除、トマト黄化葉巻病・黄化えそ病対策